

理事長年頭のごあいさつ

ニュース&レポート

中南米地域産業振興関連研修事業の推進

海外での活動状況

ロシア、ベトナム、フィリピン、パキスタン、  
サウジアラビア、マレーシア

帰国研修員の活躍紹介

ニュース&トピックス

KITA / KMEの活動状況

最近6カ月間に修了した研修コース

TOPICS

## Saudi Arabia, Japan Tie Up on Sewage Water Treatment

M. Ghazanfar Ali Khan  
Arab News

ect and the sewage system in Japan will  
also be made by the team here today at

RIYADH — A mission of experts has arrived in Saudi Arabia to start a new technical cooperation project on the "Management of Sewage Water Treatment Plant in the Kingdom". The project has been given green light by the Ministry of Water and Electricity and Japan International Cooperation Agency (JICA).

The project was discussed in Riyadh, Saudi Arabia, by H.E. Takahashi, deputy minister of the Ministry of Water and Electricity, who received at his official residence the JICA team headed by H.E. Ryuzi, JICA resident representative in Riyadh. Ryuzi said that the JICA team, in cooperation with the Saudi counterparts, also conducted a survey in order to obtain first-hand information about the present sewage treatment facilities.

This survey, according to Takahashi, gave information about the current situation of the sewage plant. An important present



JICA サウジアラビア下水道管理者研修に関するミニッツ交換風景

サウジアラビアの下水道分野における研修は、JICA / KITAでも初めてのものです。  
現地新聞報道は、水電力省ヤルブ局長の要請で急遽開催することとなったミニセミナー  
「日本における下水道の取り組み」のもので。 (詳細は本文(7頁)参照)

## اليوم يبدأ المشروع الياباني لمعالجة الصرف الصحي

سلام الشريف - الرياض

المنظر ان يشارك في حضور هذا العرض وزير المياه والكهرباء ويشهد المشروع على برنامجي التدريب ضمنها جابياكيا بالشكل الذي يلي بمشروبات الوزارة والتي احتياجاها - حيث تستقبل اليابان بالعين من المتخصصين السعوديين قواما من 14 مهندسا، ومهندسين الذين شاركوا في مورات الشريف باليابان ان يمشيوا قادمين في مجال تخصصاتهم ومنظمين للحلقات العلمية وورش العمل العملية في مجال معالجة مياه الصرف الصحي. فلما بالواقع ان يتنهلوا في مستنير وتعاون إدارة 'مخيمات معالجة مياه الصرف الصحي في المملكة وس تم الاسهام في دعم مسيرة السعود.

وسل الى المملكة الفريق الياباني المبعوث من الحكومة اليابانية بجابياكيا لبدء تنفيذ مشروع التعاون الفني الجديد لإدارة محطات معالجة مياه الصرف الصحي بالمملكة. - ان تم الاتفاق في وقت سابق من العام الماضي على التعاون لتنفيذ المشروع بين كل من وكالة اليابانية للتعاون الدولي ووزارة المياه والكهرباء وسيقوم الفريق الياباني اليوم بتقديم عرض سمعي ومرئي حول المشروع ونظام مياه الصرف الصحي والتخلص في اليابان وذلك بالحفاظ على البيئة في ميثى وزارة المياه والكهرباء بالرياض. ومن

Al-Medina News  
2 Oct. 2007

## SAUDI-JAPANESE PROJECT ON SEWAGE WATER MANAGEMENT

... JICA arrived in the Kingdom to start the cooperation project on the "Management of Sewage Water Treatment Plant in the Kingdom". The project has been given green light by the Ministry of Water and Electricity and Japan International Cooperation Agency (JICA).

The project will be made by the team headed by H.E. Ryuzi, JICA resident representative in Riyadh. Ryuzi said that the JICA team, in cooperation with the Saudi counterparts, also conducted a survey in order to obtain first-hand information about the present sewage treatment facilities.

This survey, according to Takahashi, gave information about the current situation of the sewage plant. An important present





## 年頭のごあいさつ

# “ 初心を忘れず ”

(財)北九州国際技術協力協会  
理事長

河野 拓夫

あけましておめでとうございます。

新しい年が明るく希望に満ちた年でありますようお願いしております。

昨年秋、ヨーロッパ連合(EU)は大統領職を創設すると発表しました。リスボンでの首脳会議で採択された新たな基本条約では、外交政策の共通化なども盛り込み、2009年から新しい運営体制に移行するとしています。1952年に欧州石炭鉄鋼共同体(ECSC)として発足してほぼ半世紀、この間、欧州共同体(EC)からヨーロッパ連合(EU)に発展し、1999年にはユーロという名の単一通貨を導入、経済的な一体化を図ってきました。通貨は独立国の象徴とも言うべきもので、この統一には各国の強い抵抗があったものと想像されます。

もともと、ヨーロッパは民族的色彩の強い地域が多く、保守的な伝統を頑なに守ってきました。古いものや古い風習を大切に、アメリカ風のやり方を成金趣味と冷笑し、自由競争、利益至上主義には反発していました。しかし、この一世紀にわたって経済力格差をまざまざと見せ付けられ目が覚めたようです。20世紀の前半は世界大戦でお互いに殺しあっていたヨーロッパの人々が悲惨な体験を経て、たどり着いたのが“ 欧州統合 ”という理念でした。いまや中東欧5カ国、バルト3国をふくむ27カ国が加盟し、人口は約4億9千万人を擁する一大経済圏となって世界経済に大きな影響力を持つまでになりました。また、EU先進国は地球環境問題に主導的な取り組み姿勢を示しています。例えば、早い時期から分別収集を実施し、リサイクルを積極的にすすめました。産業界ではよりクリーンな生産方式の推進(クリーナープロダクションの概

念の導入と推進)、環境税の実施、省エネ型製品に対する購買促進など多くの分野でリーダーシップを発揮しています。

地球環境問題については、1997年12月に、日本が議長国となって纏めた「京都議定書」に対して各国それぞれの事情があって、必ずしも足並みが揃っていないのが実情ですが、そんな中で、昨年のノーベル平和賞が、地球温暖化問題についてのドキュメンタリー映画「不都合な真実」などで世界的な啓蒙活動を行ったアル・ゴア前米副大統領と、国連の“ 気候変動に関する政府間パネル ”に授与されました。また、経済発展一本やりで進んで来た中国が、共産党大会で“ 持続可能な発展 ”宣言を採択しました。さらに、昨秋行われたオーストラリアの総選挙では、京都議定書の即時批准を公約した労働党が批准に消極的な保守党を破るなど世界の様子が変わり始めました。今年2008年は十二支では子(ねずみ年)に当たります。子(ね)は「新しい生命が種子の中に萌(きざ)し始める状態」を意味します。まさに地球環境政策に新しい芽生えが見え始めたと言えましょう。

KITAは、「北九州に蓄積された経験と技術を世界の持続可能な発展に生かしたい」との思いから1980年に創立されました。北九州の市民の中から生まれ、その土壌の中で育ったKITAは当初から環境問題を重要なテーマとして参りましたが、このような世界の新しい動きに勇気づけられます。

新しい年を迎える市民の皆様とともに、初心を忘れず、着実に前進していくことが地球環境保全に、貢献することになると心を新たにした次第であります。



## 『 JICA・KITA協働による 「中南米地域産業振興関連研修事業」についての熱い思いを述べる』

JICA九州 業務第2チーム チーム長 富安 誠司



中南米地域では、「持続的な経済成長」が各国の経済目標として掲げられており、中小企業育成や生産性・品質向上などの産業振興は重要な課題であります。

そこで、JICAは、昨秋3日間、北九州において、KITAのご協力を得て、中南米諸国の援助窓口機関の関係者に、わが国の中小企業振興の施策や実情を理解して貰うため「中南米諸国対象国際協力セミナー（地方プログラム）」を開催しました。パラグアイの大蔵省次官をはじめ12カ国より局長、課長レベルの行政官が参加されました。

同プログラムでは、三木KITAコースリーダーや北九州市職員による中小企業支援の歴史や施策の講義、KITA研修コースの紹介とともに、(株)戸畑ターゲット工作所では生産性向上の取り組みの現場を視察、北九州市の環境への取り組みについて理解を深めるための同市エコタウンセンター訪問などを実施しました。参加者からは「中小企業を実際に視察することで講義内容をより深く理解できた。また、社長との対話を通じ、北九州市の中小企業振興策がいかにも実践されているか確認することができた。」とコメントがあり、非常に高い評価を得ることができました。

また、JICAは、中南米諸国の産業振興、中小企業育

成を狙った平成19年度の中南米地域対象の研修コースとして、「日系研修地域活性化」、「生産性向上実践技術」、「中小企業・地場産業活性化研修」、「地域産業と連携した職業訓練」及び「プロセス工業におけるクリーナープロダクション」の5つの研修コースの実施をKITAにお願いしております。

前述の「中南米諸国対象国際協力セミナー」（地方プログラム）を通じて、中南米諸国の援助窓口のキーパーソンに北九州市の中小企業振興の実際とKITAの研修を知っていただいたことは、今後、同地域において当該分野の協力を円滑に進める上で非常に良い機会になったと考えております。

これを契機に、前述の5つの研修を核としてKITAとJICAとの協働により中南米地域への協力をさらに進めていく所存でございますので、関係各位の引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。



セミナー参加者（於 西日本工業倶楽部）

## 『初めての試み「日系人対象の地域活性化」研修を終えて』

KITAコースリーダー 三木 義男

KITAにとって中南米地域の日系人対象研修事業は、初めての試みで、昨年のお盆から約1ヶ月間の非常に暑い盛りの研修でした。

研修目的は、日本における地域活性化ノウハウ、日本の生活文化およびブレイクスルー（B/T）思考の習得です。研修員は、ブラジル国からの3名で、サンパウロ、ベレン（北部）、パラカツ（中部）の出身で、2名が日本文化福祉協会の事務局長、1名が地域開発活性化事業団代表です。

研修成果としては、特に、ブレイクスルー思考と大分一村一品（OVOP, One-Village One-Product）運動に興味を示し、「思考を変える必要を感じていたが、B/T思考を学んで目が覚めた。」また「OVOP運動は、地域活性化の原動力になることを認識した。」との感想でした。

帰国後の研修員から「今回の貴重な体験を生かしてブラジル、日本両国の役に立ちたいと新たな気分になった。また、2008年は日本移民百周年記念で、新たな交流が始まるチャンスでもある。」とのお手紙をいただきました。

この研修を通じて中南米地域での日系人の活躍状況や各国の情勢を知ることができました。今後の研修に反映したいと思います。



OVOP提唱者の平松前大分県知事を訪問



福岡みやこ農協の視察

## 『ロシア・チェリャビンスク州企業と北九州市企業のビジネスマッチング』

技術協力部 工藤 和也

2005年8月の北九州市からの「ロシア市場開発ミッション」派遣（JETRO / ROTOBO<sup>\*</sup>主催）に始まり、2007年5月の「ロシア・チェリャビンスクからの代表団の北九州市訪問」などを経て、同年10月、北九州市の鉄鋼関連企業7社からなる「チェリャビンスク州企業とのビジネス推進ミッション」を派遣しました。

ロシア・チェリャビンスク州には、チェリャビンスク冶金コンビナート（CMK：400万トン/年）とマグニトゴルスク製鉄所（MMK：1,200万トン/年）という二大製鉄所があります。これら製鉄所は旧式の設備が依然として多く残っており、新鋭化が課題であり、北九州市の企業が持つ先端技術トランスファーの可能性は大きいので、今回、ROTOBO事業としてKITAと北九州市がバックアップし、上記ミッションを派遣しました。

現時点では、ROTOBO / KITAの援助なしではロシア企業に入り込むのは不可能に近く、今回のミッションへの参加満足度では、今後商談に発展しそうな3企業を含め、高い評価を得ました。また、ロシア側商社の役割を担ったチェリャブ・ギプロメズ社（ロシアのエンジニアリング会社）の貢献度も高いものでした。なお、今後の商談具体化の段階では、北九州市の（株）ドーワテクノスが商社機能を果たすことが期待されます。

なお、今回の商談ミッション行程表は下記の通りでした。

- 10月1日：チェリャブギプロメズ社訪問とプレゼンテーション
- 10月2日：メチェル社工場見学とプレゼンテーション
- 10月3日：ビジネスマッチング検討会
- 10月4日：マグニトゴルスク（MMK）工場見学とプレゼンテーション

<sup>\*</sup>ROTOBO：社団法人ロシアNIS貿易会



CMK幹部とのミーティング



MMK幹部とのミーティング

## 『ロシア・チェリャビンスク市の廃棄物対策コンサルティング』

KITA環境協力センター 中 園 哲

昨年9月、ROTOBO<sup>\*</sup>の委託により、ロシア・チェリャビンスク市の廃棄物処理改善のための調査を実施しました。チェリャビンスク市では、年間に発生する約25万トンの廃棄物を最終処分場に投棄しており、周辺地域の環境悪化を招いています。また、リサイクルも不十分であり、廃棄物処理が大きな課題となりつつあります。

調査に先立ち、廃棄物処理の関係者、大学、住民団体など60人余が参加するセミナーを開催し、北九州市の廃棄物対策や清掃工場の概要を紹介、質疑応答を行いました。住民団体や大学教授から、清掃工場の安全性確保などについて熱心な質問が出されました。その後、廃棄物処理を担当する「同市エコセンター」において、各部門の責任者から廃棄物処理状況についてヒアリングし、廃棄物処理計画について意見交換する一方、最終処分場、リサイクル工場などを視察しました。

その間、チェリャビンスク州政府、市政府を訪問するとともに、マスコミの取材にも対応して、廃棄物処理問題について市民の関心を高めることに貢献しました。

調査結果をもとに、リコメンデーションを作成し、同

市に送付しました。今後、ROTOBOにおいて、さらなる調査事業が実施される予定です。

<sup>\*</sup>ROTOBO：社団法人ロシアNIS貿易会



セミナー風景



チェリャビンスク市の廃棄物処理場



## 『ベトナム・ハイフォン市でのCPによる環境改善の現地調査』

技術協力部 藤本 研一

KITAは、地球環境基金の助成事業として、ハイフォン市における環境改善活動を行っています。ベトナムは高度経済を達成中で、対象のハイフォン市の経済成長率は、約12%（2006年度）で、工業団地の建設が急ピッチで進んでいます。反面、公害問題が顕在化しつつあり、対策が追い付いていません。また、人口180万人の同市に下水道設備がないので、将来、問題になると危惧されます。

CP\*による環境改善活動の主な内容は、カルシウムカーバイト製造会社（T社）の環境改善、市民と市当局吏員への環境啓蒙活動です。

昨年の7月、9月には、T社を訪問し、公害の実態調査と対策案を協議しました。対策として、アルカリ排水の塩酸による中和および固形廃棄物のセメント工場での処理を指導しました。

また、昨年10月には、環境啓蒙セミナーを開催しました。その際、ベトナム駐劄日本大使を表敬訪問し、活動内容を説明申し上げました。また、ハイフォン市副市长と懇談し、北九州市の公害克服の歴史を熱心に聴いていただきました。セミナー演題は「公害防止への取り組みに関するハイフォン市と北九州市の交流」で、ベト

ナム側から45人が出席し、質問も活発で盛況でした。なお、講演者と講演内容は下記のとおりです。

基調講演「世界の環境首都を目指して」  
北九州市技術監理室長（前建設局長） 南立氏

「北九州における公害防止への取組」  
KITA技術協力部専門員 田中氏

「下水道の仕組み」 北九州市上下水道協会主幹 末田氏

「ハイフォン市の環境問題と改善」  
ハイフォン市天然資源環境局課長 Mr.Son

\*CP:クリーナープロダクション



セミナー風景

ベトナム日本大使公邸にて  
(中央が服部ベトナム駐劄日本大使)

## 『フィリピン・セブ市における植樹による環境啓蒙事業』

KITA環境協力センター 安田 祐司

KITAは、イオン財団の支援を受け、2005年度からフィリピン・セブ市の環境啓蒙事業を継続しています。昨秋は、地球温暖化と森林をテーマに、セミナーの開催と植樹を行いました。事業には、セブ市、NGO（第7管区公害管理者協会）、地元大学、山間部自治区から約120名の参加をいただき、「身近なところから、できることから」を合言葉に、地球環境問題を学ぶとともに、植樹を実践することができました。また、地元ラジオの生番組に出演し、温暖化と植樹の関係、KITAの活動についてアピールすることもできました。

セミナーには、クイズや環境活動の企画書づくりに挑戦するなど、皆で楽しく学びあうことができました。また、植樹は、山間部の約1haで地元の高木4種（400本）を対象に行いました。山間部といっても、ジャングルは焼畑耕作等により荒廃しており、樹齢数十年程度の雑木林が残っている程度でした。また、荒地にススキ（外来種）が穂を出していましたが、これはゼロ戦の置き土産とのことで、四季がないにもかかわらずこの時期に限って穂を出すとのことでした。初めて植樹を経験した若者からは、「土や植物との触れ合いに強い感銘を受けました。今後も機会があれば積極的に汗を流したい。」と

のことでした。

この事業とは直接関連しませんが、セブ市の議員から、これまでにIGES\*や北九州市が中心に進められてきたセブ市の浄化槽事業が現在中断されており、事業の再開を市当局に働きかけて欲しいとの要望がありました。そこで、セブ市長の表敬にあわせ、この件についても市長に直接陳情することとし、その場で快諾いただきました。

\*IGES:財団法人地球環境戦略研究機関



セミナー風景



植樹風景

## 『パキスタンにおける廃棄物埋立地の技術指導』

KITAコースリーダー 原口 清史

わが国はこれまでパキスタンに対し、都市廃棄物管理の改善に係わる無償資金協力、JICA 専門家派遣、技術協力プロジェクトなどを実施し、一定の成果をおさめてきました。その後も、パキスタン政府から、廃棄物の収集運搬の効率化や準好気性埋立地の建設指導などのさらなる要請がありました。そこで、筆者はJICA 専門家として、廃棄物埋立地の技術指導のため昨年8月中旬訪パしました。先行して現地入りしていた福岡大学松藤教授と合流し、カラチ市のごみ埋立地の改善指導や首都イスラマバードのごみ埋立地の建設などを行いました。

カラチ市の処分場では、既に準好気性埋立地が設置され、また、過去に松藤教授が訪パ、指導した経緯もあり、適切に維持管理が行われ、処理施設も順調に稼働していました。また、イスラマバード処分場では今回の主目的である埋立地の建設を行いました。その建設は、日本で研修を受けた帰国研修生達を中心となり、掘削のための重機を除いては、ほとんど手作業で、ワーカー総勢80名を指揮して始まりました。幅30m、長さ60mのサイトで、メインの排水管はコンクリート管を2本、

枝管は1本とし、それぞれにガス抜き管やジョイントの部分には柵を設置しました。材料は現地で簡単に入手できるものを使用し、特にガス抜き管は使用済みの廃タイヤや廃ドラム管を活用し、極めて安価で簡便であるが理にかなった処分場を建設しました。

今回のように日本で研修を受けた者同士が、帰国後相互に連携を取り合い、協働したことは、日本の研修での成果がさらなる展開を見せたもので、生きた研修を見た思いでした。



イスラマバードごみ処理場における排水管、ガス抜き管の建設風景



完成したごみ処分場に立つ筆者

## 『東南アジア鉄鋼協会 環境・安全委員会出席とベトナム、インドネシア訪問記』

KITAコースリーダー 上野 正勝

昨年の10月1日、ホーチミン市で開催された東南アジア鉄鋼協会（SEAISI）の環境・安全委員会にて「北九州における大気汚染の克服の歴史」を講演したのをきっかけに、JICAベトナム、ベトナム鉄鋼協会、JICAインドネシアおよびクラカタウ製鉄を訪問して10月11日に帰国しました。

SEAISIでは、北九州市と企業が、市民と研究機関との協力のもとにどのように汚染を克服したか、そしてその貴重な経験がKITAに集積され、発展途上国の環境対策に活用されていることを紹介しました。近年、鉄鋼のクリーンプロダクション（CP）に高い関心を示しているSEAISIから非常に高い評価を受けました。

10月5日ハノイ市へ移動し、JICAベトナムとベトナム鉄鋼協会（VSA）を訪問しました。VSAでは会長と事務局長に面談し、筆者がKITAで担当している「鉄鋼業におけるCP」について紹介しました。会長から「ベトナムでは2020年までに全製造業にCPを導入する国家目標があるので、この研修コースの活用を検討したい。」との話がありました。

10月8日の週は、JICAベトナムとクラカタウ製鉄（KS）を訪問しました。KS訪問は一昨年に続く2回目で、一

昨年以上の大歓迎を受けました。研修生の派遣を総括する教育・研修部長から「JICA / KITAの研修のおかげで、社内にCPの考えはかなり普及してきた。今後も引き続き協力を」との歓迎の挨拶がありました。また、JICAの現地事務所からも貴重な情報をいただきました。ありがとうございました。



KS社訪問と同社の帰国研修員との交歓会（前列左が筆者、右がKS社教育・研修部長）



SEAISI環境・安全委員会で講演する筆者



## 『サウジアラビア下水道管理者研修のためのミッション報告』

KITA環境協力センター 安田 祐司

サウジアラビアでは、欧米主導によりターンキー方式で下水道施設整備が進められています。また、2007年度からは、欧米主導による下水道管理の完全民営化が進められると聞いています。これまでのJICA専門家派遣の実績から、JICAは、技術が十分移転されていない同国が民営化を急ぐことを大いに危惧しており、わが国の取組みを参考にしよう同国に提案し、また、そのための下水道管理者研修を提案しました。

今回の研修ミッション(昨年9月28日から1週間)は、KITAから1名、北九州市建設局から2名の専門家が参加し、下水処理場の視察やミニセミナーを通じて、研修プログラムなどの詳細について水電力省ヤルブ局長などと協議し、合意してきました。また、JICAでは初の試みである研修後のフォローアップ、すなわち同国が主催するワークショップおよび成果セミナーの開催についても合意しました。ラマダン(断食月)の期間であり、朝から晩まで昼休み無しの長丁場でしたが、ミニセミナーには水電力省の次官3名のうち2名の参加をいただい

たほか、同国では珍しいとのことですが、急遽、大臣への表敬が可能となり、中村特命全権大使に対応をお願いする場面がありました。

研修は、「下水道計画」と「下水道維持管理」の2コースあり、第1回目は本年1月に、1ヶ月15名のコースからスタートします。



水電力大臣(中央)への表敬訪問



ミニセミナー風景

## 『マレーシアにおける鉄鋼業の生産構造問題に関するプレゼンテーション』

技術協力部 工藤 和也

筆者は、昨年9月ペルワジャスチール(マレーシア)主催の「鉄源確保に関するシンポジウム」において、「マレーシアにおける鉄鋼業の生産構造問題について」講演を依頼されました。同社はマレーシアの東海岸にあり、生産規模は、DRI\* EF-CCプロセスによる粗鋼100万トン/年程度です。

講演は、「中国鉄鋼業の急激な発展の状況、マレーシア鉄鋼業の実態と位置づけについて」の観点から行いました。

講演後のディスカッションでは、筆者は下記の観点をコメント(要旨)しました。

2010年以降、マレーシア鉄鋼業は中国の鉄鋼製品の輸出攻勢を受けるであろう。

中国の輸出鋼材は、今後とも普通鋼が中心である。また、この鋼材はマレーシアでも製造しているもので、製品競合があり、また今後競合は激化するであろう。上述の中国からの輸入ダメージを考慮し、今後の生産構造を検討すべきであろう。ペルワジャスチールとしては、マレーシア国内の鉄鋼会社との連携やインドネシア、中国との連携も視野に入れるべきであろう。

\*DRI: Direct Reduced Iron process、直接還元鉄プロセス

## 『内容刷新した韓国中小企業技術者専門セミナー実施』

事務局 有田 雄一

韓国中小企業技術者専門セミナーは、韓国中小企業技術者のレベルアップを目的に、1994年に日韓両国政府の後押しにより開設し、昨年度までに435名の韓国中小企業技術者が受講されています。

今年度は、さらに効果的なセミナーとするため、トヨタ生産方式を代表とした「生産管理技術」にテーマを特化、技術テーマ別に設定していたコースを「自動車関連製造業」「機械・電気製造業」「その他製造業」というおおまかな業種別に再編成、従来日本語習得

のため日本語で行っていた講義・工場視察の主旨にハンゲルを導入するなど内容を刷新し、昨年10月1日から約1カ月間実施しました。その結果、参加者(20名)から高い評価をいただきました。

自動車関連製造業コースの研修風景  
(於トヨタ自動車九州(株))

## 中国

氏名 Mr.Li Hong-Wen

KITAコースリーダー 鋤持 武泰

- 勤務先** 北海集琦方舟遺伝子製薬公社  
Gene-Pharmaceutical Corporation Jiqifangzhov, Beihai
- 研修コース** クリーナープロダクションのための  
プラントメンテナンス技術(2001年度)
- 業務** 設備管理者(Plant Manager)を経て、  
現在は資金管理者(Fund Manager)

帰国後研修員は、アクションプランの活動として、日本で学んだ“5S”(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を実行し、自社の生産ラインの作業効率化の大幅向上に大きく貢献した。その後多くの経験を積み、現在は上海で資金管理者として、証券市場に投資し利益を上げる責任を負っている。投資対象を選定するに当っては、企業の設備保全状況を理解することが大いに役立っている様子である。



北海集琦方舟遺伝子製薬公社の玄関



JICAでの研修風景  
(シーケンス制御実習)

## フィリピン

氏名 Ms.Domingo Geronima Tersol

KITAコースリーダー 川合 玄夫

- 勤務先** ノア製紙株式会社
- 研修コース** フィリピン クリーナー  
プロダクション振興(2003年度)
- 業務** 技術サービス部長

帰国後研修員はアクションプランに沿って、工場内で“5S”活動を立ち上げ、定期的にそのフォローアップを実行している。また、次年度以降の帰国研修員と連携したエコセミナー(本コースの研修内容をオーム返しに帰国後普及させるセミナー)開催など精力的に活動している。



帰国研修員による  
エコセミナー風景



帰国研修員による  
エコセミナー風景

## チリ

氏名 Mr.Horge Ivan Santander Jara

KITAコースリーダー 鋤持 武泰

- 勤務先** エナップ石油精製会社
- 研修コース** クリーナープロダクションのための  
プラントメンテナンス技術(2004年度)
- 業務** 新設設備の保全 および 検査計画

本人は新設された設備の保全と検査計画を担当している。それには2つの活動がある。1つは、モニターシステムで得られる情報から故障原因、対策を行う故障診断であり、多くの実績を上げている。もう1つは、新設設備の設備点検方法の決定、重要装置と重要部品の決定、操業条件の見直しなどの保全計画作成である。



社内岸壁に立つ  
帰国研修員



故障診断中の  
スリーブ軸受



タイ

氏名 Mr.Kittiporn Posew

KITAコースリーダー 外山 弘

- 勤務先 エネルギー省エネルギー開発局
- 研修コース 非破壊検査技術 (2004年度)
- 業務 水力発電所建設の機械技師

本人は帰国後、浸透探傷試験と超音波探傷試験を職場へ適用、実用化した。写真はTung Phan 水力発電所の導水鋼管(長さ1,200m)への超音波探傷試験風景である。従来は溶接部の溶け込み不良による欠陥が多数検出され全てがリジェクトされていたが、同試験の結果、溶接方法の修正などにより、現在では現地溶接が問題なく行えるようになり、多大な成果を挙げている。



導水鋼管への超音波探傷試験風景



帰国研修員の検査中の近影

エジプト

氏名 Mr.Moustafa Adel Fathi Mohammed

KITAコースリーダー 石川 隆

- 勤務先 新エネルギー・再生可能エネルギー庁 サファラナ風力発電所
- 研修コース クリーナープロダクションのための保全管理(2005年度)
- 業務 保全部上級技師、風力発電機保守、運転、運用訓練・スペアパーツ管理・部品修理管理

帰国後研修員は、日本で習った「保全管理」の中で特にCDT(Condition Diagnosis Technique、設備診断技術)のCBM(Condition Based Maintenance、状態基準保全)を、担当設備に導入適用することに最善の努力をした。また、現場管理に“5S”活動を導入し職場を活性化した。



設備診断機器(マシンチェッカー)による点検作業



“5S”で工器具置き場を整理整頓

トルコ

氏名 Mr.Telat Guler

KITAコースリーダー 谷口 政隆

- 勤務先 マスハジ・ゾール・アナトリア工業高校
- 研修コース コンピュータによる機械制御(2004年度)
- 業務 工業技術科 教諭

帰国後研修員は、最新の自動制御技術を工業高校で広めるための活動を行っており、自動制御機器に関する数冊のテキストや制御装置のサンプルプログラムを25種類作成した。また、20種類のその他の教材を新たに準備した。このように、日本で学んだことを着実に実務に生かし、トルコの技術教育の向上に大きく貢献している。



帰国研修員の工業高校授業風景



帰国研修員の工業高校授業風景

## 「KITA / 北九州メンテナンス技術研究会 (KME)」平成19年度総会・講演会開催

KITA生産性協力センター 関 義明

北九州メンテナンス技術研究会 (KME) の平成19年度総会・講演会は、昨年7月19日に北九州市八幡東区の千草ホテルで行われました。

総会では、平成18年度事業報告および平成19年度事業計画が審議され、事務局原案通り承認されました。

総会終了後3名の講師による講演会が行われ、会員会社の役員、管理職、技術者70名が出席し、盛會裡に終了しました。演題および講師は次の通りです。

「産学連携を成功させるための条件と成功事例 (その1)」  
九州工業大学 産学連携推進センター  
産学官連携コーディネーター 田中 洋征氏

「産学連携を成功させるための条件と成功事例 (その2)」  
九州工業大学 工学部  
機械知能工学科 教授 野田 尚昭氏

「新しい保全戦略 プロアクティブ保全の紹介」  
(有)日本診断工学研究所 代表研究者 豊田 利夫氏

今回の講演は、産学連携の様々なプロジェクトに実際

に取組まれている九州工業大学の先生方から、今迄のご経験に基づいた産学連携の必要性や事業化のポイント、事業化の成功事例の紹介と具体的連携事例の詳細についてご講演いただきました。また、豊田講師からは機械設備保全への新しい取り組みであるプロアクティブ保全の考え方、必要性および従来の保全方式との対比やプロアクティブ保全の実例紹介とその効果についてご講演いただきました。



KME講演会

## 「KITA / KMEセミナー」平成19年度実績

セミナー名	講師	実施月日	受講実績	
			会社数	受講者数
疲労・強度	(有)浦島テクノサービス 代表取締役 浦島 親行氏 佐賀大学 名誉教授 西田 新一氏	5月10、11日 5月24、25日	11社	14名
腐食・防食	九州工業大学 准教授 津留 豊氏 日鉄環境エンジニアリング(株) 部長 井上 政春氏 (株)材料・環境研究所 代表取締役 長野 博夫氏	6月15、22日 6月27日 6月28日	10社	16名
溶接技術	九州工業大学 名誉教授 加藤 光昭氏 九州工業大学 客員教授 安西 敏雄氏	7月25日 7月26日	10社	24名
トライボロジー (摩擦、磨耗、潤滑)	早稲田大学大学院 教授 松本 将氏	8月29、30日	12社	19名
制御技術	(株)安川電機 (モータ制御) 井手 耕三氏 同上 (インバータ制御) 山川 孝之氏 三菱電機(株) (シーケンサ制御) 白土 義隆氏	9月11日 9月14日 9月20、21日	8社	10名
油圧制御	ボッシュ・レックスロス(株) 営業統括部 課長 善如寺 誠氏	11月2日	12社	30名
工場内情報 ネットワーク 構築技術	早稲田大学大学院 教授 李 義韻氏 早稲田大学大学院 准教授 立野 繁之氏 早稲田大学大学院 准教授 藤村 茂氏	12月10日	8社	12名
設備診断技術	(有)日本診断工学研究所 代表研究者 豊田 利夫氏	平成20年 1月30、31日	(3社)	(4名)
合 計			74社	129名

(注) 受講実績の( )内は平成19年12月末現在の受講申込数で合計に含む。



## 最近6カ月間(2007年7月~12月)に修了した研修コース(2007年12月末)計242名

研修コース 凡 例	JICA 集団研修	JICA 地域別研修	JICA 国別研修	KITA 個別研修
--------------	--------------	---------------	--------------	--------------

	研 修 コ ー ス 名	受託先機関など	コースリーダー/(アシスタントコースリーダー)	KITA研修期間(月/日)	研修人数
環境対策	産業廃水処理技術	JICA	荒川	7/31~11/22	7
	生活排水対策	JICA	小川/(米澤)	9/10~12/7	9
	アジア地域 大気汚染源モニタリング管理	JICA	紅露	9/25~12/13	6
	南西アジア地域 廃棄物管理	JICA	原口	11/5~12/14	12
	KOICA-JICA 大気環境保全管理	JICA	西野	9/3~9/14	16
	中国・鉄鋼業における環境・資源・エネルギー管理能力の形成	JICA	西野	6/12~7/27	13
	フィリピン・都市及び産業における環境管理 環境処理能力向上	JICA	南	6/4~8/9	8
	クウェート・石油関連技術者のための環境保全研修コース(水質汚染防止)	(独行)石油天然ガス・金属鉱物資源機構/日本オイルエンジニアリング(株)	和田	10/29~11/9	9
	クウェート・石油関連技術者のための環境保全研修コース(大気汚染防止)	(独行)石油天然ガス・金属鉱物資源機構/日本オイルエンジニアリング(株)	田中	11/26~12/7	11
職業訓練、管理能力向上	持続可能な発展のための職業環境保健マネジメント	JICA	高橋	8/13~11/30	11
	地域活性化研修(日系人対象)	JICA	三木	8/13~9/14	3
	韓国・自動車関連製造業コース	日韓産業技術協力財団/韓日産業技術協力財団	石井	10/1~11/2	7
	韓国・機械・電気製造業コース	日韓産業技術協力財団/韓日産業技術協力財団	香山	10/1~11/2	7
	韓国・その他製造業コース	日韓産業技術協力財団/韓日産業技術協力財団	北田	10/1~11/2	6
	ベトナム・公設試験業務	JICA	宮本	9/10~12/7	3
循環型社会推進	中国・循環型社会形成推進研修	JICA	指輪	7/7~8/10	6
	アジア循環型社会創造(ASEAN)(県)	福岡県	田嶋/(指輪)	11/26~12/21	8
	アジア循環型社会創造(中国)(県)	福岡県	田嶋/(指輪)	8/27~9/21	7
アジアの環境人材育成	中国・昆明市下水道管理者研修(第2回)	中国・昆明市	鶴田	7/23~8/4	11
	中国・昆明市下水道管理者研修(第3回)	中国・昆明市	鶴田	12/10~12/22	14
	イラク・環境管理研修	(独行)石油天然ガス・金属鉱物資源機構/(財)海外技術者研修協会	藤本	12/10~12/14	20
	中国・貴陽市水環境整備研修(第1回)	NECファシリティーズ	鶴田	7/18~7/20	21
	CLAIR研修(環境保全)	北九州市	-	5/21~11/19	1
	中国・遼寧省大学関係者研修 循環型社会構築	中国・遼寧省教育庁	指輪	10/15~11/8	11
	中国諸都市人材育成研修	北九州市	指輪	11/26~12/4	8
	JICA草の根・スリランカ国河川モニタリング研修	JICA	南	10/22~11/16	3
	スラバヤ市水環境改善研修	北九州市	-	12/10~12/21	4

研修コースの詳細、年間スケジュールは KITA のホームページ( <http://www.kita.or.jp/> )でもご覧になれます。

## KITA人事異動

## 新 任

コースリーダー(サウジアラビア・下水処理施設の運転、維持管理の向上)……岸田 徳康(10月24日付)  
 アシスタントコースリーダー(中東地域産業環境対策)……塚本 康敬(10月24日付)

## 退 任

KITA生産性協力センター……西岡 忠良(7月31日付)  
 研修部……真鍋多見夫(8月31日付)  
 KITA生産性協力センター……岩田 利弘(10月31日付)

## 円借款による環境保全のための中国対象の人材育成事業 KITA環境協力センター 安田 祐司

**経** 済発展の著しい中国に対し、わが国からインフラ整備などにこれまで多額の円借款が投入されています。しかし、せっかく設備を整備しても、メンテナンスや経営がまずいと、十分活用されない恐れがあります。そこで、JBIC（国際協力銀行、有償資金協力実施のわが国の機関）は、円借款の条件にわが国での研修の履行を加えることとしました。

これを受けKITAは、昆明市、フフホト市および貴陽市を対象とした下水道管理者研修、特に施設の維持管理に焦点を当てるとともに、わが国の先進的な水処理技術、河川や湖沼の富栄養化対策を紹介した研修と、遼寧省の大学関係者を対象とした循環型経済に関する研修、すなわち、わが国でも先進的であるエコタウンを中心とする廃棄物リサイクルの取組みに重点をおいた研修を実施しています。

これらの研修は、現場視察を重視した短期間に多くの施設を回るハードなコースですが、研修員には故障者もなく、皆元気に取り組んでいます。

中国の環境対策は、産業公害や生活排水など基本的な対策に追われている段階ですが、近い将来、必ず富栄養化問題や資源循環対策が浮上することから、本研修の成果を中国の施策に反映されることを、心から願っています。

これまでKITAの国際研修は、主に無償資金協力の枠、すなわちJICAによる研修を対象として実施してきましたが、これからは、JBICの研修事業にも積極的に取り組むと考えています。



遼寧省の大学関係者対象の循環型経済研修

## 真鍋氏へJICA九州から感謝状

**昨** 年の10月19日、JICA九州国際センター笠原所長から研修部の真鍋多見夫氏に、研修事業を通して長年にわたり国際協力に多大な貢献をされたことに対し、感謝状が授与されました。

真鍋氏は新日本製鐵（株）、環境エンジニアリング（株）を経て、1988年から水処理の専門家として、KITA/JICAの「産業廃水処理技術コース」のコースリーダーを務め長年研修員の指導に当たってこられました。また、後半は研修部長の片腕となり他のコースリーダーの先頭に立ってJICAが進める研修の効率化に献身的に取り組んでこられました。

真鍋氏は当日受賞者を代表して謝辞を述べられた中で、20年に及ぶご活躍を懐かしく振り返られた後、研修を通して途上国への技術移転、国際親善に貢献できた喜びと、JICAが進める研修の効果・効率の向上に寄与できた満足感を熱く語っておられました。

昨秋KITAを退かれましたが、その功績は温かい人柄とともに長く私達の記憶に残ることでしょう。



喜びの真鍋氏（中央）

## （財）吉川育英会殿からKITAへ助成金をいただきました

事務局 藤重 宗夫

**吉** 川育英会（財団法人）殿から、昨年9月、当協会の国際交流事業に対する助成金をいただきました。

（財）吉川育英会は、北九州市に本社を置き、鉄鋼・エレクトロニクス・エンジニアリングの3事業を柱に全国に事業展開している吉川工業（株）殿が平成3年に設立し、「アジア諸国からの留学生に対する奨学金給付」「海外留学生の交流・啓蒙の場の提供」「国際交流事業への助成」を主な事業としている財団です。奨学金給付事業では、これまでに福岡県内8大学213名の留学生に対し奨学

金が支給され、帰国した卒業生の多くはそれぞれの道で目覚ましい活躍をしていると伺っています。

財団常務理事の吉川和良氏から「急激な経済発展の中にあって環境破壊は世界的な規模で進んでいます。産業開発と環境改善の調和を目指した国際技術協力は今後ますます重要性を増してくると思われます。そのための人づくりを積極的に進められているKITA様の今後の活動にご期待申し上げます。」とのお言葉をいただきました。（財）吉川育英会殿のご厚意に心から感謝いたします。

KITAニュース

No.29(第29号)  
2008年1月1日発行

発行：財団法人北九州国際技術協力協会

編集発行人：事務局長 藤重 宗夫

〒805-0062 北九州市八幡東区平野一丁目1番1号 国際村交流センター4階

TEL：093-662-7171 FAX：093-662-7177 E-mail：info@kita.or.jp URL：http://www.kita.or.jp/

上記URL(KITAホームページ)には、KITAのご案内、活動、過去のKITAニュースなどを掲載していますのでご覧下さい。